

V-1-2. 乳幼児健診からみた乳幼児期のハイリスク児

青木 継稔* 原 まどか*

I. ハイリスク児の概念

ハイリスク児は、従来新生児期の医療上、疾病罹患や死亡の危険が大きく特別のケアを必要とするような条件を持った新生児をハイリスクインファント (high risk in infant あるいは high risk newborn) と呼び、新生児死亡率の低下および心身障害児発症の予防として重要視されてきた。ハイリスクインファントのハイリスク事由は、新生児自体にある場合とハイリスク妊娠・分娩によるものとに分けられている。

しかし、ハイリスク児は新生児期(狭義のハイリスク児)のみならず、小児の全成長期を通して考慮すべきであろう。また、従来はハイリスク事由として、ある疾患や異常状態を発生する可能性の高い小児群が強調されてきたが、こうした生物学的要因のみならず、社会的・環境的事由も小児の健全育成に支障をきたすこともある。

本稿においては、乳幼児期を中心としてハイリスク児 (children at high-risk) という広義の概念を導入することとし、遺伝的要因・生物学的要因ばかりでなく、広く家庭や社会等の環境的要因を含めたものとして促えてみた。

II. ハイリスク事由の領域

乳幼児ハイリスク児のハイリスク事由は、社

会環境、家庭環境および生物学的弱質の3領域に分類される¹⁾。乳幼児ハイリスク事由の主なものは、表1に掲げる。小児成長期の区分によってハイリスク事由の重点項目は、それぞれ異なってくる。とくに、保健所等にて実施されている集団健康診査や個別医療機関における乳幼児健診の場においては、対象児の年月齢に応じたハイリスク事由を予じめ想定してはおき、チェックリストあるいは健診票の中に組み入れて重点的に健診を行う必要がある。また、ハイリスク事由は、心身障害の早期発見・早期治療や療育、あるいは発症予防対策のみならず、小児の心身の健全育成という包括的健康管理にも志向していることを忘れてはならない。

1. ハイリスク乳児

ハイリスク新生児 (high risk newborn: newborn at high-risk) については、前項(大野先生のところ)に記載されているので省略し、ここでは1ヵ月、4ヵ月児、7ヵ月児および12ヵ月児について記載する。

1) 1ヵ月児のハイリスク事由

1ヵ月児は、新生児期が過ぎ母乳あるいは人工栄養も確立し母体も心身安定してくる時期である。1ヵ月児の精神・運動発達等は重症なものでない限り症状発現なく、出生前・周生期あるいは新生児期の要因に基づく生物学的弱質に

*東邦大学医学部第2小児科学教室

関する項目が多い。1ヵ月児のハイリスク事由の主なものは表2に掲げる。

2) 4ヵ月児のハイリスク事由

4ヵ月児は、母児相互作用(愛着行動)がかなり順調に進む。家庭環境は母子関係を重視する必要があり母親を中心とする養育者の育児態度を見定める。生物学的要因は、出生前・周生期要因としてのハイリスク事由や出生後の疾病罹患等に注目しなければならない。4ヵ月児は運動発達や精神行動面の発達をチェックする重要な時期であり、一般診察のほかには神経学的な異常、精神行動間の異常、視聴覚機能あるいは整形外科的な問題にも注意を要する。4ヵ月児ハイリスク事由の主なものは表3に示した。

3) 7ヵ月児のハイリスク事由

7ヵ月児は、親の養育態度や母子相互作用を注意して診る必要がある。より心身の健康な状態を志向する現在、遊びや発達刺激などの母子相互作用が益々重要となってくる。生物学的要因としては、神経学的異常、精神行動発達上の問題、視聴覚の問題および身体発育等の異常がハイリスク事由の重点となろう。7ヵ月児ハイリスク事由の重点項目は表4に示した。

4) 12ヵ月児のハイリスク事由

12ヵ月児は、満12ヵ月以上13ヵ月未満児をさし、満1歳児(満1歳以上2歳未満児)とは明確に区別する。社会環境としては、つたい歩き、ひとり立ち、独歩を始めたためやゝ広い遊び場が欲しい。家庭環境としては安全に対する配慮の重要性に注意する必要があり、親の養育態度を診ていかねばならない。生物学的要因は、神経学的問題、精神発達や行動発達が重視され、さらに身体発育、視聴覚機能や歯科学的問題等がハイリスク事由の主要なものとなろう

(表5)。

2. ハイリスク幼児

幼児期は、精神・運動および行動発達が目ざましい時期である。したがって、幼児は発達に関する問題がハイリスク事由としての占める頻度を増すことになる。幼児区分は、本稿において1歳6ヵ月児、3歳児および5歳児について記載する。

1) 1歳6ヵ月児のハイリスク事由

1歳6ヵ月児は、中脳支配から大脳支配優位となり、運動、精神、言語、情緒など盛んに発達する時期である。家庭の外にも興味を示し、他の児にも関心を示す。1歳6ヵ月児のハイリスク事由は、出生前あるいは周生(産)期の要因による中等度以上の病気の発見はほとんど終了しており、種々の発達に関する問題が大きくクローズアップされる。勿論、乳児期までのハイリスク事由を忘れてはならないが、出生後の社会環境や家庭環境による要因も大きく加味されてくる。1歳6ヵ月児のハイリスク事由の重点項目は、表6に示す。

2) 3歳児のハイリスク事由

3歳児は、両親・同胞等の家族との触れ合いのほか、近隣の友達を求めてよく遊ぶようになり集団生活が少しづつできるようになり、また、我慢もできるようになってくる。おむつがとれて身辺自立もかなり進む。また、言葉を沢山覚えて上手に話をするようになる。従って、3歳児は、精神発達、言語発達、社会性の発達、情緒発達あるいは発達行動上の問題、さらには身辺自立等の問題がハイリスク事由の重点項目となってくる。神経学的には、soft neurological signsの異常、視聴覚の異常あるいは歯科学的な問題も重要となる(表7)。

3) 5歳児のハイリスク事由

なろう(表8)。

5歳児は保育園あるいは幼稚園に入り、集団生活適応が可能となっている。精神発達は著しく、知的好奇心が強くいろいろなことを吸収する。一方、環境適応不全や行動上の問題、気になる習癖、学習障害、注意力障害といった問題が目立つようになってくる。したがって、5歳児のハイリスク事由の重点項目は、精神発達、行動発達等の異常、精神心理的な問題が中心と

参考文献

- 1) 中山健太郎：乳幼児の健康診査とスクリーニング，医学書院，東京，1980.
- 2) 前川喜平，青木継稔：今日の乳幼児健診マニュアル．中外医学社，東京，1990.
- 3) 前川喜平：乳児健診における境界児の診かたと扱いかた．診断と治療社，東京，1989.

表1 ハイリスク事由の3領域の重要なもの

<p>I 社会環境</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 非衛生，貧困，スラム街 2. 環境汚染 <p>II 家庭環境</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済的不安定・貧困 2. 家庭不和 3. 家族に重い疾患 4. 母親の重い疾患 5. 養護不良，非嫡出子 6. 悪い育児環境（住宅等） <p>III 生物学的要因</p> <p>A 出生前要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 染色体異常・奇形症候群 2. 大奇形を有する児 3. 小奇形を数個以上有する児 4. 遺伝性疾患の家系 5. 先天代謝異常等マス・スクリーニング陽性児 6. 糖尿病・甲状腺疾患の母体から生れた児 7. TORCH 症候群 8. 梅毒血清反応陽性母体か 	<p>ら生れた児</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. HBe 抗原陽性母体から生れた児 10. その他（ ） <p>B 周生（産）期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 低出生体重児 2. 巨大児 3. 胎盤機能不全症候群 4. 新生児仮死，APGAR 1分6点以上 5. 多胎 6. fetal distress のあったもの 7. その他（ ） <p>C 出生後の要因・その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新生児期の強い黄疸，交換輸血，光線療法 2. 保育器に長く入っていた児 3. 呼吸障害があった児 4. 新生児けいれんのあった児 5. 黄疸の遷延する児 	<ol style="list-style-type: none"> 6. チアノーゼのあった児 7. 頭囲異常（頭囲大，小頭，狭頭） 8. 心雑音を有する児 9. 哺乳力低下の哺乳障害のある乳児 10. 発育障害のある乳児 11. floppy infant 12. 原始反射，姿勢あるいは運動に異常のある児 13. 白色瞳孔，角膜混濁 14. 母乳栄養児のビタミンK 欠乏性出血 15. 腹部膨満 16. 入院期間の長かった児 17. 頸部腫瘤 18. Ortolani 陽性児 19. 養護不良 20. 家族歴にアレルギーを有する児 21. 貧血を有する児 22. 皮膚異常 23. その他（ ）
---	---	---

その他（ ）は、この中にハイリスク事由を記入すること

表2 1ヵ月児のハイリスク事由の主なもの

<p>I 社会環境</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 非衛生, 貧困, スラム街 2. 環境汚染 3. 僻地 4. 大都会 <p>II 家庭環境</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済的不安定・貧困 2. 父親不在（母子家庭） 3. 母親不在（父子家庭） 4. 養育者の変更（別・離婚・再婚） 5. 家族内の重い疾患 6. 育児に対する無知・迷信 7. 育児環境が悪い（住宅等） 8. 母子相互作用稀薄 	<p>III 生物学的弱質児</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出生前, 周生期要因 <ol style="list-style-type: none"> 1) 周生期前要因 2) ハイリスク妊娠, 分娩より出生した児 3) 低出生体重児 4) 奇形・先天異常児 5) 早期新生児期の異常（中枢神経障害, 呼吸障害, 循環器障害など） 6) 認められる原因がなく先天的弱質 2. 出生後の要因 <ol style="list-style-type: none"> 1) 発育障害 2) 発達遅滞 3) 行動発達の異常 4) 重症疾患の既往のある児 5) 慢性疾患の現病・既往のある児 6) いわゆる虚弱児
---	---

表3 4ヵ月児のハイリスク事由の重点項目

<p>I 社会環境</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 非衛生, 貧困, スラム街 2. 環境汚染 <p>II 家庭環境</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済的不安定, 貧困 2. 家庭不和 3. 母子家庭・父子家庭 4. 養育者の変更 5. 家族に重い疾患 6. 母親に重い疾患 7. 養護不良・非摘出子 8. 育児不安・無知・迷信 9. 育児態度が悪い 10. 母子相互作用稀薄 11. 育児環境が悪い <p>III 生物学的要因</p> <p>A 出生前, 周生(産)期要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 低出生体重児 2. 先天異常を有する児 3. 梅毒血清反応陽性の母体から生まれた児 4. HBe抗原陽性の母体から生まれた児 5. その他() <p>B 新生児期要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新生児仮死: APGAR 1分6点以下 2. 多胎児 3. 新生児黄疸の強かった児 光線療法, 交換輸血 4. 新生児けいれんのあった児 5. 保育器に入っていた児 6. 退院まで長い期間かかった児 7. 新生児期に何らかの病気があった児 病名() 8. その他() 	<p>C その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 神経学的に異常をもつ児 首が坐らない, 身体が硬い, そっくり返る, グニャグニャしている, 指を握ったまま, 引き起こし反射の異常, 姿勢の異常, その他() 2. 精神行動面の異常 あやして笑わない, 追視しない, 無関心, 大人しすぎるなど, その他() 3. 身体発育に異常 大頭, 小頭, 肥満, やせ, 低身長, その他() 4. 栄養, 食習慣に問題 ミルク嫌い, 飲まない, 遊びのみなど その他() 5. けいれんの既往 6. 貧血・出血傾向 7. 易感染傾向, アレルギー素因 8. 小奇形を数個以上有する児 9. 体質・罹病傾向 10. 皮膚異常, アトピー, 白斑, その他() 11. 耳鼻科的異常: 難聴うたがい 12. 眼科的異常: 追視しない, 斜視, 白色瞳孔 など 13. 整形外科的異常: LCCなど その他() 14. 一般診療における軽微は異常所見を有する 児: 異常所見名()
---	--

表4 7ヵ月児のハイリスク事由の重点項目

<p>I 社会環境</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 非衛生, 貧困, スラム街 2. 環境汚染 <p>II 家庭環境</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済的不安定, 貧困 2. 家庭不和 3. 母子家庭, 父子家庭 4. 養育者の変更 5. 非嫡出子 6. 家族・母親等の重い疾患 7. 養護不良 8. 育児不安, 無知, 迷信 9. 育児態度が悪い 10. 育児環境が悪い 11. 母子相互作用稀薄 12. 遊び, 発達刺激 13. 家族関係(祖父母, 同胞) <p>III 生物学的要因</p> <p>A 出生前, 周生(産)期要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 低出生体重児 2. 先天異常を有する児 3. その他() <p>B 新生児期要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新生児仮死: APGAR 1分6点以下 2. 多胎児 3. 新生児けいれんのあった児 4. 保育器に入っていた児 5. 黄疸が強かった児 6. 入院期間の長かった児 7. 新生児期に何らかの病気があった児 病名() 8. その他() 	<p>C 出生後の要因・その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 神経学的に異常をもつ児 お坐りしない, 足をつっぱらない, 腹パイで胸腹を挙げない, 両手を合せない, 物をつかまない, その他() 2. 精神行動面に異常をもつ児 あやして笑わない, 無関心, 物に興味を示さない, 大人しい その他() 3. 身体発育に異常 大頭, 小頭, 肥満, やせ, 低身長, その他() 4. 栄養, 食習慣に問題 離乳が進まない, 便秘, 下痢しやすい その他() 5. 神経芽細胞スクリーニング陽性児 6. けいれんの既往 7. 貧血, 出血傾向 8. 易感染傾向・アレルギー素因 9. 体質, 罹病傾向 10. 皮膚に異常を有する児 アトピー性皮膚炎 その他() 11. 耳鼻科的異常を有する 難聴うたがひ, その他() 12. 眼科的異常を有する児 視力障害, 斜視, 白色瞳孔など その他() 13. 整形外科的異常を有する児 内反足 O脚, X脚 など その他() 14. 一般的診療における軽微な異常を含めた所見() 15. 今まで罹患した重い病気 病名()
---	---

表5 12ヵ月児のハイリスク事由の重点項目

<p>I 社会環境</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 非衛生, 貧困, スラム街 2. 環境汚染 3. 近所に公園や遊び場 4. 地域に友達・保育園整備 <p>II 家庭環境</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済的不安定, 貧困 2. 家庭不和 3. 母子家庭・父子家庭・非嫡出子 4. 養育者の変更 5. 家族・母親等に重い疾病 6. 養護不良 7. 育児不安, 無知, 迷信 8. 育児環境が悪い 9. 育児態度が悪い 10. 母子相互作用稀薄 11. 遊び, 発達刺激 12. 安全指導 13. 家族関係 <p>III 生物学的要因</p> <p>A 出生前, 周生(産)期, 新生児期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 低出生体重児 2. 先天異常を有する児 3. 多胎児 4. 新生児期に何らかの病気があった児 病名 () 5. その他特記すべき事項: ハイリスク事由 () <p>B 出生後の要因・その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 神経学的に異常をもつ児 つたい歩きしない, ひとり立ちしない, 物をつまめない など その他 () 2. 精神発達に異常を有する児 呼んでも振り向かない, 無関心など その他 () 	<ol style="list-style-type: none"> 3. 行動発達上に問題を有する児 大人しい, 泣かない, 攻撃的, 自傷, 多動, 落ち着かない その他 () 4. 身体発育に異常を有する児 低身長, 高身長, 肥満, やせ, 頭が大きい, 頭が小さい その他 () 5. 栄養・食習慣に問題 離乳完了, 間食の与え方, 偏食 その他 () 6. けいれんの既往 7. 貧血, 出血傾向 8. 易感染傾向, アレルギー素因 9. 体質・罹病傾向 10. 予防接種歴に異常 11. 皮膚に異常を有する児 アトピー性皮膚炎 その他 () 12. 耳鼻科的異常を有する児 難聴うたがい その他 () 13. 眼科的異常を有する児 視力障害, 斜視, 白色瞳孔など その他 () 14. 整形外科的異常を有する児 X脚, O脚 その他 () 15. 歯科学的問題を有する児 う歯, 歯列不正 その他 () 16. 一般的診療における軽微な異常を含めた 所見 () 17. 今まで罹患した重い病気 病名 ()
---	---

表6 1歳6ヵ月児のハイリスク事由の重点項目

<p>I 社会環境</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 非衛生, 貧困, スラム街 2. 環境汚染 3. 近所に公園や遊び場 4. 地域に友達, 保育園の整備 5. 地域の福祉・教育施設, 療育施設 6. 地域に総合病院 	<p>その他 ()</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 言語発達上に問題を有する児 単語が出ない, 言うことを理解しない など その他 () 4. 社会性発達上に問題を有する児 他の子に興味を示さない, 相手になっても喜ばない, あと追いをしない など その他 ()
<p>II 家庭環境</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済的不安定・貧困 2. 家庭不和 3. 母子家庭・父子家庭・非嫡出子 4. 養育者の変更 5. 家族・母親等に重い病気 6. 養護不良 7. 育児不安・無知・迷信 8. 育児環境が悪い 9. 育児態度が悪い 10. 母子相互作用稀薄 11. 遊び, 発達刺激 12. 安全配慮, 指導 13. 家族関係 14. 清潔, しつけ 15. 友達との交流 	<p>5. 行動発達上に問題を有する児 多動, 落書きがない, 自分本位, 異常に大人しい など その他 ()</p> <p>6. 生活習慣上に問題を有する児 コップの水を飲めない, さじやフォークを使いたがらない など その他 ()</p> <p>7. 身体発育に異常を有する児 低身長, 高身長, やせ, 肥満, 大頭, 小頭 など その他 ()</p> <p>8. 体質, 罹病傾向 けいれんの既往, 貧血, 出血傾向, 易感染傾向, アレルギー素因 その他 ()</p> <p>9. 予防接種歴に異常</p> <p>10. 皮膚に異常所見を有する児 アトピー性皮膚炎 など その他 ()</p>
<p>III 生物学的要因</p> <p>A 出生前・周生(産)期, 新生児期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 低出生体重児 2. 先天異常を有する児 3. 多胎児 4. 新生児期に何らかの病気があった児 病名 () 5. その他特記すべき事項: ハイリスク事由 () <p>B 出生後の要因, その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 神経学的に異常をもつ児 歩かない, つま先歩き, 歩き方がおかしい, 物をつまめない など その他 () 2. 精神発達に異常を有する児 物マネしない, 他の子に関心がない, 絵本に興味をもたない, 無関心 など 	<p>11. 耳鼻科的異常を有する児 難聴, うたがいなど その他 ()</p> <p>12. 眼科的異常を有する児 視力障害, 斜視, 白色瞳孔 など その他 ()</p> <p>13. 整形外科的異常を有する児 X脚, O脚, 内反足 など その他 ()</p> <p>14. 歯科学的問題を有する児 う歯, 歯列不整 など その他 ()</p> <p>15. 一般的診察における軽微な異常を含めた所見 ()</p> <p>16. 今まで罹患した重い病気 病名 ()</p>

表7 3歳児のハイリスク事由の重点項目

I 社会環境	その他 ()
1. 非衛生, 貧困, スラム街	4. 社会性発達上に問題を有する児
2. 環境汚染	子離れできない, 親離れできない,
3. 近所に公園や遊び場	友達と遊べない, 環境適応不全 など
4. 地域に友達	その他 ()
5. 地域に保育園, 幼稚園の整備	5. 行動発達上に問題を有する児
6. 地域の福祉・教育施設・母子保健	多動, 注意力障害, 自傷行為, 自閉傾向,
7. 地域の療育施設	学習障害 など その他 ()
8. 地域の総合病院	6. 精神心理面に問題を有する児
II 家庭環境	チック, 指しゃぶり, 夜驚症, オナニー,
1. 経済的不安定・貧困	遺尿, 異食, 性器いじり その他 ()
2. 家庭不和	7. 生活習慣上の問題を有する児
3. 母子家庭, 父子家庭, 非嫡出子	排便・排尿に関する問題, 不潔, 左きま,
4. 養育者の変更	着衣, 着脱 など その他 ()
5. 家族, 母親等の重い病気	8. 身体発育に問題を有する児
6. 養護不良	低身長, 高身長, やせ, 肥満, 大頭, 小
7. 育児不安, 無知, 迷信	頭, 四肢のバランスが悪い など
8. 育児環境が悪い	その他 ()
9. 環境変化, 引っ越し, 海外生活	9. 栄養, 食習慣に問題を有する児
10. 母子相互作用稀薄	偏食, 過食, むら食い, ひとり食べ, か
11. 安全配慮, 指導	ままない, 少食, 間食が多い など
12. 遊び, 発達刺激 (たんれん)	その他 ()
13. 清潔・しつけ	10. 体質, 罹病傾向
14. 家族関係	けいれんの既往, 貧血, 出血傾向, 易感
15. 友達との交流	染傾向, アレルギー素因, 虚弱体質など
III 生物学的要因	11. 予防接種歴に異常
A 出生前・周生(産)期・新生児期	12. 皮膚に異常所見を有する児
1. 低出生体重児	アトピー性皮膚炎 など その他 ()
2. 先天異常を有する児	13. 耳鼻科的異常を有する児
3. 多胎児	難聴うたがい その他 ()
4. 新生児期に何らかの病気があった児	14. 眼科的異常を有する児
病名 ()	視力障害, 斜視, 白色瞳孔 など
5. その他特記すべきハイリスク事由	その他 ()
()	15. 整形外科的異常を有する児
B 出生後の要因・その他	X脚, O脚, 扁平足 など
1. 神経学的に問題を有する児	その他 ()
歩き方がおかしい, soft neurological signs	16. 歯科学的に問題を有する児
の異常など その他 ()	う歯, 歯列不正, 反対咬合 など
2. 精神発達に異常を有する児	その他 ()
精神遅滞, 自閉傾向児 その他 ()	17. 一般的診察における軽微な異常を含めた所
3. 言語発達上に問題を有する児	見 ()
ことばの遅れ, 特発性言語遅滞, 構音障	18. 今まで罹患した重い病気
害, どもり, 反響言語 など	病名 ()

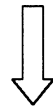
表8 5歳児のハイリスク事由の重点項目

<p>I 社会環境</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 非衛生, 貧困, スラム街 2. 環境汚染 3. 近所に公園, 遊び場 4. 地域に友達 5. 地域に保育園, 幼稚園の整備 6. 地域の福祉, 教育施設, 母子保健 7. 地域の療育施設 8. 地域の総合病院 <p>II 家庭環境</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済的不安定, 貧困 2. 家族不和 3. 母子家庭, 父子家庭, 非嫡出子 4. 養育者の変更 5. 家族・母親等の重い病気 6. 養護不良 7. 育児環境が悪い(住宅など) 8. 環境変化, 引っ越し, 海外生活 9. 安全配慮 10. 遊び, 発達刺激(たんれん) 11. しつけ 12. 家族関係 13. 友達との交流 <p>III 生物学的要因</p> <p>A 出生前, 周生(産)期, 新生児期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 低出生体重児 2. 先天異常を有する児 3. 多胎児 4. 新生児期に何らかの病気があった児 病名() 5. その他特記すべきハイリスク事由 () <p>B 出生後の要因・その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 神経学的に問題を有する児 歩き方がおかしい, 走り方がおかしい, 動作が鈍い, 手先が不器用などsoft neurological signsの異常 その他() 2. 精神発達に異常を有する児 精神遅滞, 自閉傾向児 その他() 3. 言語発達上に問題を有する児 ことばの遅れ, 特発性言語遅滞, 構音障害, どもり, 反響言語 など その他() 	<ol style="list-style-type: none"> 4. 社会性発達上に問題を有する児 友達と遊べない, 環境適応不全 など その他() 5. 行動発達上に問題を有する児 多動, 注意力障害, 自傷行為, 自閉傾向, 学習障害, 攻撃的 など その他() 6. 精神心理面に問題を有する児 チック, 指しゃぶり, 夜驚症, オナニー, 夜尿, 遺尿, 遺糞, 異食, 性器いじり など その他() 7. 生活習慣上の問題を有する児 排便・排尿に関する問題, 左きみ, 着衣, 着脱 その他() 8. 身体発育に問題を有する児 低身長, 高身長, やせ, 肥満, 大頭, 小 頭, 四肢のバランスが悪い その他() 9. 栄養, 食習慣に問題を有する児 偏食, 過食, むら食い, ひとり食い, か ままない, 少食, 間食が多い その他() 10. 体質, 罹病傾向 けいれんの既往, 貧血, 出血傾向, 易感 染傾向, アレルギー素因, 虚弱体質 その他() 11. 予防接種歴に異常 12. 尿検査に異常 所見() 13. 皮膚に異常所見を有する児 アトピー性皮膚炎 など その他() 14. 耳鼻科的異常を有する児 難聴うたがい その他() 15. 眼科的異常を有する児 視力障害, 斜視, 白色瞳孔 など その他() 16. 歯科学的に問題を有する児 う歯, 歯列不正, 反対咬合 など その他() 17. 一般的診察における軽微な異常を含めた 所見() 18. 今まで罹患した重い病気 病名()
---	--



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1. ハイリスク児の概念

ハイリスク児は、従来新生児期の医療上、疾病罹患や死亡の危険が大きく特別のケアを必要とするような条件を持った新生児をハイリスクインファント(high risk in fantあるいはhigh risk newborn)と呼び、新生児死亡率の低下および心身障害児発症の予防として重要視されてきた。ハイリスクインファントのハイリスク事由は、新生児自体にある場合とハイリスク妊娠・分娩によるものに分けられている。

しかし、ハイリスク児は新生児期(狭義のハイリスク児)のみならず、小児の全成長期を通して考慮すべきであろう。また、従来はハイリスク事由として、ある疾患や異常状態を発生する可能性の高い小児群が強調されてきたが、こうした生物学的要因のみならず、社会的・環境的事由も小児の健全育成に支障をきたすこともある。

本稿においては、乳幼児期を中心としてハイリスク児(children at high-risk)という広義の概念を導入することとし、遺伝的要因・生物学的要因ばかりでなく、広く家庭や社会等の環境的要因を含めたものとして促えてみた。